

平成28年度 美術館企画展実施報告書

	事業名	会期	内容	鑑賞者数
企画展	1 OPAM×能勢伊勢雄 シアター・イン・ミュージアム 未完の表現の系譜とは何か？ ライブ、写真、映像、 前衛芸術の出会い	2016年4月8日(金)～5月8日(日)	ミュージアムの新しい姿によるこそ！！展示室にライブパフォーマンスやトークイベントが繰り広げられる表現の場＝「シアター」を取り入れ、美術館に異空間を創り出す斬新な試み。岡山市のライブハウス「ペーパーランド」を主宰するかたわら、写真や文筆活動など多方面で活躍する能勢伊勢雄氏を監修者に迎える。 能勢氏の作品展示の他、映像表現や前衛芸術など、異なるジャンルの表現が共存する空間を構成する。	2,465人
	2 コレクションに見る 日展に集う画家たち	2016年5月18日(水)～6月5日(日)	明治末の文展開設以降、帝展、新文展、さらには戦後の日展と続く系譜の中で、県内からは数多くの美術家がここを舞台に活躍し、わが国の美術界に確かな足跡を残してきた。 日本画の岩澤重夫、正井和行、洋画の江藤純平、江藤哲、中山忠彦、陶芸の河合誓徳ら、日展の中核を担った実力派の作家たちの作品を一堂に紹介する。	3,991人
	3 生への言祝ぎ －インスタレーション、十二の柱 ＋出会いのパフォーマンス－	2016年6月11日(土)～7月18日(月・祝)	「出会いと五感のミュージアム」を標榜する当館を舞台に、国内外で活躍するアーティストたちの表現が響き合う祝祭空間を現出させる試み。 「インスタレーション、十二の柱」は、造形作家たちが、人々の生活である日々の営みに対する賛美＝「言祝ぎ」をオブジェやインスタレーションであらわす。「出会いのパフォーマンス」は、ウィーンを中心に4名のパフォーマーが大分の地霊にインスピレーションを得た祭祀を展開する。	4,077人
	4 片岡辰市コレクションの精華 －竹田と松園、日本美術の雅び－	2016年7月29日(金)～9月11日(日)	山口県の実業家・片岡辰市は、長年にわたって田能村竹田の作品や資料を中心に、周辺の南画家や文人の書画、さらには近代日本画の著名作家らの作品を蒐集して、貴重なコレクションを形成してきた。 このコレクションが大分県立美術館に収蔵されたことを機に、上村松園の幻の名作「月蝕の宵」をはじめ、田能村竹田、頼山陽、浦上玉堂、竹内栖鳳、橋本閑雪らによるコレクションの代表的な秀作の数々を紹介する。	8,197人
	5 オランダのモダン・デザイン リートフェルト/ブルーナ/ADO 遊ぶデザイン&暮しのアート	2016年12月2日(金)～2017年1月22日(日)	名作「レッド・ブルーチェア」で知られるヘリット・トーマス・リートフェルト、「ミッフィー（うさこちゃん）」の生みの親として知られるディック・ブルーナ、そして、結核療養所で入所患者に玩具シリーズ「ADO（アド）」の制作を指導したコー・フェルズー。20世紀のオランダで生まれた彼らのデザインには、鮮やかな色彩と幾何学形態によるシンプルな構成、手工業が生みだすぬくもりなどに、風土や文化に培われた豊かな人間性を見出すことができる。 20世紀オランダのデザインが社会に与えた影響なども含めて検証しつつ、生活と常に密接な関係にあるデザインの魅力と可能性を展望する。	9,522人
	6 東西風景版画の出会い －ターナーから浮世絵、近代版画までの珠玉	2017年2月10日(金)～3月5日(日)	本展は、当館のコレクションより、銅版画による風景表現の多様性と技術の進歩を示した19世紀イギリスの風景画家ウィリアム・ターナーの《研鑽の書》全99点を一堂に展示するとともに、銅版画の影響を受けた歌川豊春の浮絵から、葛飾北斎や歌川広重の名所絵、橋口五葉、川瀬巴水、吉田博らの近代版画へと至るわが国における風景版画の展開を紹介。東西の出会いを通して花開いた版画芸術の魅力に迫る。	4,168人